

プレゼン行動における非言語行動による表現の個人差要因の特定と可視化

研究分野: 画像処理、視覚メディア、メディア情報処理、可視化、信号処理

キーワード: 画像工学、視覚メディア、メディア情報学、感性工学

貢献できるSDGsの区分:



情報システム学部 情報システム学科 講師 前村 葉子

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/hazuki/>

研究概要

プレゼンテーション、演技などのパフォーマンスは非言語行動により感情を豊かに表現するスキルを学習するひとつの機会となり、人間の発達を押し上げる効果があるとされる。本研究では、プレゼンテーションのひとつとして、紙芝居上演の演者のパフォーマンスに着目し、パフォーマンスに寄与する要素のなかで観測可能な非言語行動を測定し可視化する。

また紙芝居の場面転換にともなう場面感情の状態遷移を軸として演者の動作、表情、音声などのマルチモーダルな信号を観測し熟達差にかかわる特徴を抽出する。これらの数理モデル化を行うことにより新たな入力演技信号に対する非言語行動の各要素の熟達度を推定し提示するシステムの構築を目指す。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ①人物モーション分析(被験者数1・屋内・歩行無し)
- ②プレゼンにおける非言語行動抽出(被験者数1)
- ③汎用ウェアラブルセンサによる生体信号処理(被験者数1)

外部との連携実績等

なし